

☆尊い「いのち」を守る取り組み☆



自分で みんなで
「いのち」を守ろう
～安心安全フェスタ～
大和市立草柳小学校

5月26日(土)、草柳小学校で、児童・保護者・地域の方を対象に、安心安全フェスタが開催されました。このフェスタは、体験活動を通して、自分の命は自分で守るという姿勢をもつことを目的に、草柳小学校三者協議会の主催により開催されたものです。この協議会は、学校・PTA・地元自治会からなるもので、このフェスタの開催にあたっては、大和警察署・大和市消防本部・大和市交通指導員連絡協議会・交通安全母の会・大和市都市施設部道路安全対策課の協力をいただいています。



開会セレモニーでは、初めに、大木哲・大和市長から、「防災と交通安全を併せた企画は、全国でもあまりありません。草柳小学校から市内へ、そして全国へと取り組みが広がって欲しいです。」とお話がありました。次に、滝澤正・大和市教育委員会教育長から、「今日の体験が、自分の命・みんなの命

を守ることにつながって欲しいです。」というお話がありました。

最初に、交通安全ビデオを見て、自転車の乗り方について学びました。児童は、真剣な表情で、身乗り出して見えました。「自転車は、車なんだ。」「自転車横断帯を走らなければいけない。」「傘差し運転や携帯電話で話しながらの運転は、いけないことがわかった。」と話していました。

その後、自転車乗り方教室、ミニバト試乗、地震体験車による震度体験、心肺蘇生法・AED(自動体外式除細動器)体験、反射神経測定、交通安全クイズ、運転シミュレーションなどの様々なコーナーで体験をしました。どのコーナーもたくさんの方にぎわっていました。今年度大和市が運用を開始した地震体験車による震度体験も、列が途切れることがありませんでした。参加者は、ヘルメットをかぶって机の下にもぐり、震度7までを体験しました。徐々に震度が大きくなり、揺れが激しくなると、体が上下左右に振られ、悲鳴のような大きな声があがりました。消防士の方からは、「地震が完全におさまるまで、絶対に机



の下から出てきてはいけません。」と、命を守るための約束を教えてくださいました。体験した児童は、「縦揺れがすごかった。」「机の下にもぐるだけでも大変だった。」「頭を守らなくてはいけないから、学校ではすぐに防災頭巾をかぶろう。」と興奮気味に話していました。一緒に参加をした保護者の方は、「大人が落ち着いて行動することが子どもの命を守ることに繋がると感じます。」と感想を話していました。

自転車乗り方教室に参加した児童は、「交通安全ビデオで勉強したことを練習できてよかった。」「横断歩道は自転車を押して歩かなくてはいけないことがわかった。」「本当の道でも約束を守っていきたい。」と嬉しそうに話していました。

また、心肺蘇生法・AED体験に参加した児童は、「心臓マッサージは、押すのに力があるので大変だった。」「これで人を助けられる。」「海などで役立つそう。」と話していました。

多くの方の協力のもと、児童も地域の方も、楽しみながら様々な体験をすることができました。地域が一体となって開催したこのフェスタの体験が、万が一のとき、「いのち」を守ることに繋がっていくことと思います。



☆学びの広がり～地域の方に支えられて～☆

世紀の天体ショー ～金環日食観測会～

大和市立渋谷中学校

5月21日（月）、渋谷中学校では、金環日食観測会が開かれました。この観測会は、地域とのつながりを大切にして日々活動している渋谷中学校の生徒のために、イオンリテール株式会社イオン大和店より全生徒分の観測用グラスが寄贈されたことから、生徒全員で奇跡の瞬間を共に過ごそうと実施することになったものです。

太陽と月が重なるその瞬間を観測するために、生徒が、朝早くから期待を胸に、続々と登校して来ました。

事前に金環日食について学んでいた生徒は、この日をとっても楽しみにしていました。

日の朝はあいにくの雨でした。金環日食の時間が近づき、雨は上がりま



したが、どんよりと曇る空には、太陽の姿は全く見えませんでした。校庭に集合した生徒が、あきらめかけていた時、突然、空を見上げていた生徒から、「見えた。」「すごい。」と大歓声があがりました。太陽と月が重なった輪が、空に鮮明に浮かび上がっていました。じっと眺める子、跳び上がって喜ぶ子。一人一人が奇跡の瞬間を目に、そして心に焼き付けていました。



「とてもきれいで、感動した。晴れて見ることができよかった。」「貴重な体験ができた。」「宇宙の神秘を感じた。」「みんなと一緒に見られて嬉しい。最高の思い出になりそう。」「と興奮気味に話していました。

この観測用グラスは、近隣の学校にも寄贈されており、地域の方の協力により、子どものがはぐくまれています。



先人の知恵を学ぶ ～田植え体験～

大和市立大野原小学校

大野原小学校の五年生は、総合的な学習の時間に、一人一人がバケツで稲を育てる「バケツ稲づくり」に取り組んでいます。5月29日（火）、初夏の日差しのもと、泉の森の水車小屋近くの田んぼで、郷土民家の職員とボランティアの方の指導により、田植えを体験しました。



苗の植え方を教えていただいた後、米作り実行委員の児童が、代表で田植えを行いました。長靴を履き、田んぼに足を入れましたが、なかなか思うように動くことができず、あちらこちらから声があがりました。

「一列にまっすぐ十五センチ間隔で植えましよう。」「苗を三、四本ずつ、親指人差し指・中指で優しく持つて。」という教えを守り、真剣な面持ちで田植

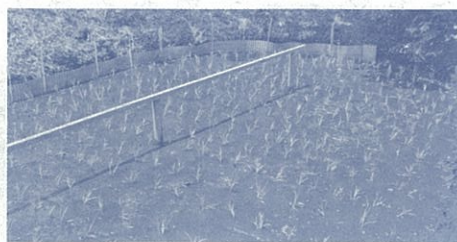


えをしました。田植えをした児童は、「とても楽しかった。でも、広い田んぼに手で植えていた昔の人はすごい。」「もつとご飯を大切に食べなくてはいけない。」と話していました。

田植え体験後、児童から、育てる時に気をつけることについて質問がありました。ボランティアの方から、「愛情をもって面倒を見てください。お米には水が必要です。水を枯らさないようにしてください。」とアドバイスをいただきました。

また、「昔の人々の知恵を知って欲しい。田植えを経験することで、お米のありがたさを感じ取って欲しい。」とお話してくださいました。帰る時に苗をプレゼントされた児童は、「一生懸命育てます。」と嬉しそうに受け取っていました。

児童は、この日に学んだことを生かし、夏休みも「バケツ稲」を家に持ち帰り、水やりを行い、稲の成長の観察も行いました。夏休み明けには小さな花が咲きました。実りの秋を心待ちに愛情を込めて世話を続けます。収穫した米は、みんなで食べる予定です。



☆心も健康 体も健康☆



あいうえお to be Happy ～児童会活動～

大和市立北大和小学校

北大和小学校では、学校目標の一つである「気持ちのよいあいうえおをする子」に向かって、様々な取り組みを進めています。7月2日（月）から13日（金）までの二週間、児童会が中心となってあいうえお運動に取り組みました。あいうえおをすると幸せになれるという気持ちを込め、「あいうえお to be Happy」というスローガンを掲げ、活動をしました。



「あいうえお」と書かれた昇降口に、児童会運営委員・各クラスのあいうえお委員が並び、登校してくる児童に、「おはようございます。」と元気に声を掛けます。登校してきた児童も、それに応え、笑顔であいうえおを返します。

六年生の児童は、「あいうえおをする」と気持ちがいい。」と、一年生の児童は、「このあいうえお運動が始まってから、自分からあいうえおができるようになった。」と嬉しそうに話していました。

このあいうえお運動の一環として、

あいうえおをしたら色を塗る「グリーンティングカード」



も作成し、あいうえおの輪が広がる工夫していました。児童会担当の先生は、「あいうえお運動が始まってから、今まで以上に、児童が元気にあいうえおをし合う姿が見られるようになってきました。この活動をきっかけに、心と心のふれあいを深めて欲しい。」と話していました。

児童会運営委員の児童は、「目を合わせてきちん」とあいうえおができるようになることが目標です。笑顔がいっぱいの学校にしていきたい。」と抱負を語っていました。



児童の思いから始まった活動で、あいうえおの輪が広がっています。児童が主体となって、これからも様々な活動に取り組み、目標に向かって頑張っていきます。

たくさん食べて元気いっぱい ～食育授業を通して～

大和市立柳橋小学校

柳橋小学校では、児童の心身の成長や健康を願い、積極的に食育を推進しています。各学年の実態に応じて、先生と中部調理場栄養士との協議・協力のもと、食育の指導内容を決め、授業を進めています。

5月18日（金）、入学間もない一年生のクラスで、栄養士宮川美保さんによる第一回目の食育の授業が行われました。調理場で給食ができるまでの工程や、給食を作っている調理員の方の気持ちなどについてお話をしていたいただきました。この授業後、給食を残さず食べる児童が、とても増えました。

第二回目の授業は、7月4日（水）に行われました。まず、一人一人に食べ物の絵が描かれたプリントが配られ、「食べ物の名前クイズ」に取り組みました。宮川さんが食べ物の絵カードを取り出すと、たくさんさんの手が挙がり、元気に名前を答えていました。



次に、好きな食べ物・嫌いな食べ物の絵に印をつけながら、「何でも食べられる。」「トマトが食べられない。」などと、自分の食生活を振り返りました。

最後に、「たべもののほし」という紙芝居を見ました。赤（体をつくる）・黄色（エネルギーになる）・緑（体の調子を整える）の三つの星が、「自分の星の食べ物が一番えらい。」と仲たがいをしますが、どれも大切なことに気づいていくというお話です。児童は、身を乗り出し、真剣な表情で話に耳を傾けていました。「嫌いなしいたけも食べられるようになるといいな。」「給食を残さず全部食べたい。」「赤も黄色も緑も全部食べて、元気になる。」と目標を話していました。



宮川さんは、「いろいろな食べ物をたくさん食べて元気に過ごしてほしい。」と児童にメッセージを送りました。栄養士と協力した食育の授業や、先生方の日々の指導や掲示物での呼びかけにより、給食の残量が非常に減ってきています。給食に関わる方々が見えることで、児童の食に対する意識が高まっています。

地域に根ざして

大和市立文ヶ岡小学校

文ヶ岡小は、児童数三百五十一名と小規模校ですが、外でよく遊ぶ素直で明るい子どもが多く、休み時間も放課後も校庭からは元気な声が響いてきます。本校では、「心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成」をめざし、様々な活動をしています。その中から、本校が大切にしている異年齢集団の取り組みと地域の特性や伝統を生かした取り組みを紹介します。

★たてわり活動★

一年生から六年生までの児童六、八名ずつでグループを作り、活動しています。月一回のいきいきタイム（昼休み）で一緒に遊んだり、泉の森全校遠足でのグループの出し物を準備したりします。三月には、六年生に心のこもったお礼の色紙をプレゼントしています。

★鼓笛隊★

五・六年生の児童全員で活動しています。五年生はリコーダーを担当し、六年生はメジャー・打楽器・鍵盤楽器など



の主楽器も担当しています。毎年、泉の森で行われる「やすらぎと緑のふれあいまつり」に参加したり、運動会の入場行進を先導したりします。十二月には六年生から五年生へ鼓笛隊を託す委譲式を行い、伝統を引き継いでいます。

これらの活動は、全員が何らかの役割を担うことで、責任感や達成感を感じることができると、児童会活動や高学年を中心に大事にしている取り組みです。

★「新大和音頭」の輪★

本校の伝統となった運動会種目に、全校で踊る「新大和音頭」があります。以前、三年生の学習で「大和のおどり」を調べた際、地域の踊りの先生を取材した縁から始まった種目です。毎年、運動会前に踊りの先生に三年生が教えていただき、一年生に伝達しています。運動会当日は、児童や教職員だけではなく、保護者や地域の方、卒業した中学生も飛び入りして、大きな踊りの輪ができます。夏の地域の盆踊りでも、大人に交じって踊る子どもたちの姿が見られます。



本校が大切にしている地域を愛し、地域に根ざす取り組みの一つです。

平成24年度

フォーラムを開催しました

大和市教育委員会指導室・青少年相談室

6月19日（火）、大和

市いじめ・不登校を考えるフォーラムが開催されました。



初めに、教育委員会指導室から本市の不登校の状況について、次に、青少年相談室からは、本市配置のスクールソーシャルワーカー（SSW）についての説明がありました。SSWの平野祥子氏からの、家庭や地域などの環境にも働きかけて行う学校福祉に基づいた子どもへの支援のお話は、参加者のSSWに対する理解を深めました。最後に、「不登校の理解と対応」という演題で、大和市長・青少年相談室特別相談員であり、NPO法人神奈川県スクールカウンセラー協会理事長の小見祐子氏にご講演いただきました。困難な状況からの回復には、子どもの気持ちを言語化させることが大切というお話がありました。また、参加者からの質問に、具体的な助言をくださいました。「子どもは日本の財産です。それぞれ立場は違いますが、子どもを救いたいという気持ちは一つで、小さなことの積み重ねが大切です。」という青蔭文雄・大和市教育委員会委員長（当時）からのお話で、会は締めくくられました。

いじめのない楽しい学校を！

大和市教育委員会・大和市公立小・中学校長会

夏休み明けに、大和市教育委員会、大和市公立小・中学校長会は、市立小中学校全児童・生徒へメッセージ「いじめのない楽しい学校を！」を配布しました。

この中で、「いじめはどんな理由があっても絶対に許されないもの」であることを確認し、いじめは、「いじめている人」「いじめをうけている人」だけではなく、「はやしたてたりおもしろがったりしている人」「かわらないようにしている人」の問題でもあることを示しています。このメッセージを使って、各クラスで話し合いが行われ、いじめをなくすために自分ができることは何かを考えました。

一人一人が自分に関わることで受け止める機会となりました。

（非常勤講師の登録を受付中）※詳細は、指導室へ

①スクールアシスタント②学校図書館司書③ヘルパー

●業務内容

- ①LD（学習障害）やADHD（注意欠陥多動性障害）などの教育的ニーズのある児童・生徒への学習支援
- ②学校図書館での司書業務、児童・生徒の読書活動支援
- ③特別支援学級の児童・生徒の介助

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

（お問い合わせ）大和市教育委員会
指導室 260-5210 教育研究所 260-5213